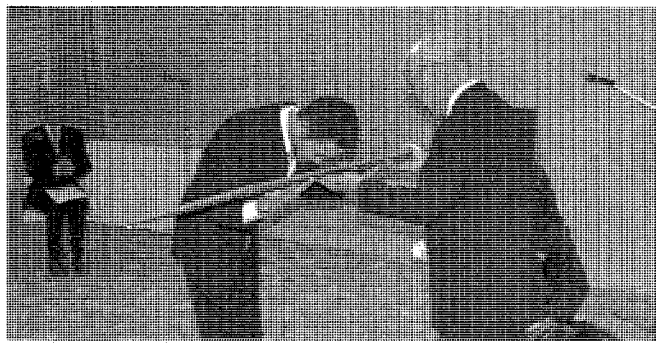
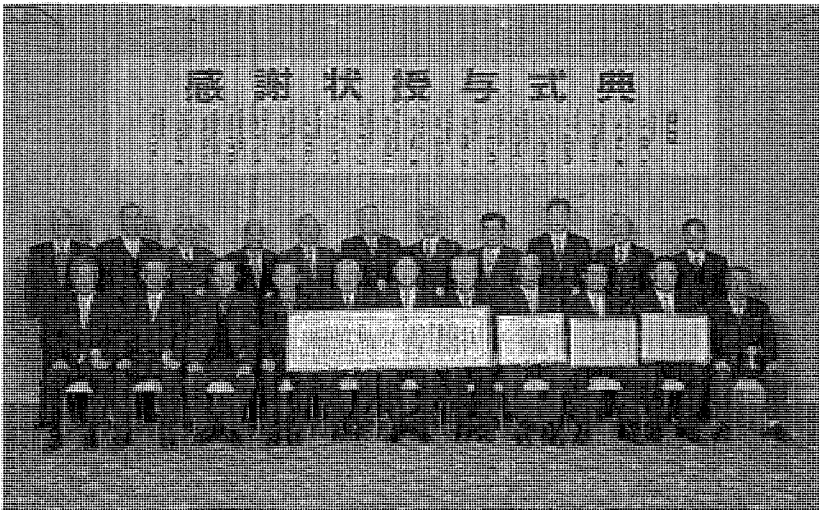


循環システム確立で感謝状

フジコーポレーション、地元地域から

フジコーポレーション（長野県佐久市）は運営する直壁刑最終処分場内で実施しているフジ式循環システムの特許を取得し、長野県の「廃棄物の適正な処理の確保に関する条例」の事業計画協議終了第1号となった。こうした地域住民との合意形成、安心な処理施設、安全な工法で地域住民に安定した生活環境を提供したことが評価され、小諸市、佐久市、御代田町の2市1町にまたがる1自治区・7団体および建設機器メーカー2社から感謝状が送られた。迷惑施設と見られがちな廃棄物処理施設で、地域から感謝状を受けるのは異例のことだ。

健全経営継続を約束



地域から感謝状を受けるのは廃棄物処理施設では異例のことだ（写真上）。感謝状を受け取る山口社長（左、同下）

感謝状授与式典は先月

26日、小諸市の小諸ラウンドキャッスルホテルで、地域住民、企業関係者などが出席して行われた。主催者を代表してあいさつした小諸市御影区の塚田美区長は、「このように廃棄物の処理・再生業者の中で地域から厚い信頼を得ている業者は国内にはいないと確信している。同時にフジコーポレーションの真摯な企業姿勢は私たち地域の誇りと言っても過言ではない」となごみ感謝状贈呈の理由について語った。

また感謝状を授与された同社の山口幸男社長は、「地元地域の皆様と信頼関係を維持・継続して

きた当社山口（藤吉郎）会長からこれだけは忘れてはいけないと言われ

てゐることは『恩義』である。現在会社が継続でき私たちが生活できるのも地元地域の皆様の理解と協力を頂いているからだ。その恩義を忘れず今まで以上に企業努力し、健全な経営を継続していくことが地元地域の皆様への恩返しだと思っ

ている。現在会社が継続でき私たちが生活できるのも地元地域の皆様の理解と協力を頂いているからだ。その恩義を忘れず今まで以上に企業努力し、健全な経営を継続していくことが地元地域の皆様への恩返しだと思っ

た。

高付加価値のビジネスを

今後の3R政策で慶大・細田教授

エコスタッフ・ジャパン講演会

一般廃棄物処理施設設置許可を取得した。自治体から搬入された廃棄物からフジ式重金屬・セメント混練により盛土材を製造、独自の圧密成形工法で全量を処分場内で環境基準を満たす安全で、強固な地盤として活用する。

同社は直壁刑最終処分場内の移動式重金屬固定・セメント混練施設（付帯設備として移動式破碎施設を有する）で、昨年12月9日に長野県から

「工法」で特許を取得。また、昨年3月1日に施行された長野県条例の事業計画協議終了第1号となった。セメント混練は前処理であることから、原材料（廃棄物）の粒度を整えることにより、良質なマテリアルをつくり、盛土材圧密成形を進化させ良質な製品をつくるため、一般廃棄物処理施設の新規申請が必要となり、許可取得に至った。これにより最終処分場内でのリサイクルが証明される形となる。

北九州に循環資源製造所

アマタ、5月開設

アマタ（東京都千代田区）は地上資源事業の九州地区進出を決め、5月に福岡県北九州市の北九州エコタウンエリアの響灘臨海工業団地内に新たな再資源化拠点、「北九州循環資源製造所」を開設する。

同社は廃棄物を価値あ